

# Peshawar-kai

# ペシャワール会報

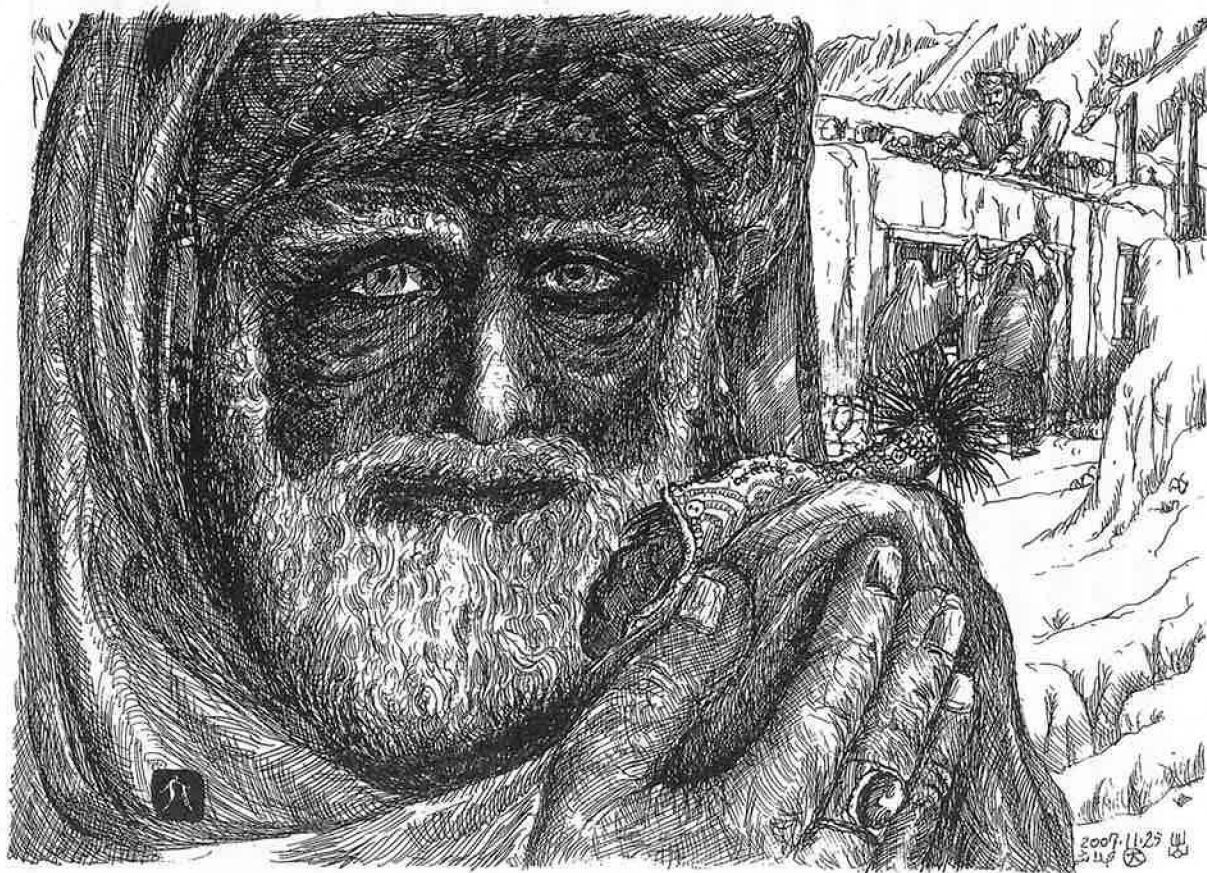
ペシャワール会事務局  
〒810-0041 福岡市中央区大名  
1-10-25 上村第2ビル 603号室  
TEL 092 (731) 2372  
FAX 092 (731) 2373

## No.94

2007年12月5日

<URL> <http://www1a.biglobe.ne.jp/peshawar/>

<E-mail> [peshawar@kkh.biglobe.ne.jp](mailto:peshawar@kkh.biglobe.ne.jp)



表紙絵 冬到来 (画・甲斐大策)

迫り来る大凶作	中村 哲
喧騒を行く人々の平和を守りたい	竹内英允
干ばつに強い品種の選定が最後の務めに	横山尚佑
コメを介して結ばれる人の絆	進藤陽一郎
既存水路に「出張」の日々です	松永貴明
寄る辺なき人々の最後の砦として	本田潤一郎
寡黙な「ベラ」に好感	近藤真一
ワーカーOB報告⑥不思議と居心地が良かったです	川口拓真

ペシャワール会は、1983年9月、中村医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成されました。  
彼の活動を支援するとともに、アジアの人々についての理解を深めていきたいと願っています。

# 迫り来る大凶作

## — 基地病院移転は半年延期、既存水路の救済が焦眉

PMS (ペシャワール会医療サービス) 総院長

中村哲

基地病院移転は半年延期に

みなさん、お元気でしようか。

パキスタン、アフガニスタン共に、現地は混乱の修羅場が遠からず予測され、必死の作業が続けられています。

先ずパキスタン・ペシャワール側では、先日からPMS (ペシャワール会医療サービス) 基地病院の移転が問題になり、会員の皆様から心配の声が多く寄せられています。その後、の経過をお知らせします。結論から言えば、移転は半年延期されました。これは、パキスタン政情の大混乱で行政機能が円滑に動かぬようになったこと、アフガン難民強制送還の動きがUNHCR (国連難民高等弁務官事務所) に牽制されたことにあります。また性急な移転は現在PMSにとつても不利が多く、動きがつかぬことがあります。当方としては十分な準備期間を取らねば、アフガン側でも

診療ができぬ状態にあります。西野医師、藤田看護師、アフガン人古参職員のジア医師らを中心に、じっくりと情勢を読み、移転と新態勢の建設が着実に進められようとしています。

パキスタン北西辺境州では、先月のワジリスタンでの大規模な反乱の後、今度はスワド渓谷で反乱の火の手が上がって国軍兵士二〇〇名以上が捕虜となり、タリバン勢力の支配下に入りました。十一月二十四日現在、米軍に押されたパキスタン国軍一万数千人が同渓谷を包囲、大規模な軍事作戦が計画されていると伝えられています。

一方、アフガニスタン側では、南部・東部諸州を中心にタリバン勢力の面的実効支配地が既に全土の半分を超え、首都が着実に包囲されていると伝えられ、欧米軍との間で戦闘規模が拡大しています。おそらく米国の擁立する現政府は、タリバン勢力との妥協な



護岸用の蛇籠を修繕する中村医師

しに存続することは不可能です。首都カーブルの人口は五〇〇万人を超え、大半がその日の食にこと欠く避難民だと見られます。一部区域の華美な風俗と余りに対照的、革命前夜を想起させ、一触即発の状態に誰もが不安を感じています。

次々と洶れる既存水路

この背景をなす大きな出来事は、外国軍の

無用な軍事行動と共に、今年九月から東部では雨が一滴も降らず、記録的な河の異常低水位が続いていることです。クナール河沿いでは、既に八月から初冬並みの水位となり、チャガサライからジャララバードに至るまで殆どの取水口が干上がりました。この結果、川沿いの村々は既にコメ、トウモロコシの収穫が全減、冬小麦も危うく、大凶作が確実視されています。

灌漑省かんがいによれば、私たちの建設したマルワリード用水路（通称、Japan Canal）のみが生き残り、現在これだけでシェイワ郡、シギ郡の全域（推定約二五〇〇町歩）を奇跡的に潤している状態です。かつて安定した水供給で知られたジャララバード郊外のベスード用水路（推定約三千町歩）も涸れ、住民たちの間に絶望的な雰囲気ふんいきが広がりました。

私たちの用水路は第二期工事を急ぎ、十一月末までに三・二キロメートル地点（N1区域）取水口から一六・三キロ）を完成、シギ郡に大量送水を可能にしようとしています。これと併行してベスード用水路の取水工事を住民と一体になって進めています。間もなくベスード用水路が復活する見通しです。直ちに連続して、シェイワ用水路の斜め堰せきと取水門の建設、対岸のカシコト村用水路の復活が手がかけられます。

堰上げ工事に必要な石材の大量輸送態勢を整え、来春予想される大混乱を前に、空前の規模で計画が動き始めました。河と戦ってきたこれまでの経験を生かし、「ともかく各村の食糧自給を絶やさぬよう、各村の農民と一体化し、手がけうる全ての取水口復旧に全力を尽くせ。二年分の予算を使っても構わない」と異例の方針を指示しました。かつて水路工事に携わった元日本人ワーカーたち、鈴木祐治、鈴木学、紺野、石橋らも非常招集で続々と現地入りを始めました。試験農場の進藤も十二月から救援に駆けつけます。

#### 進まぬ復興、不毛な議論

遅々として進まぬ復興、実のない内外の議論、外国軍の横暴に対して、もはや忍耐は限界を超えました。これは緊急事態であり、吾々の戦であります。いたずらに農民を殺戮する外国軍の「対テロ戦争」と対決し、一人でも多くの命を守る戦いであります。

もちろん日本人ワーカーたちの安全には極力配慮し、ギリギリまで留まって私たちの「命を守る平和の戦い」を完遂し、日本人の心意気を示したいと存じます。日本にあって、平和を祈り、命が脅かされる現地の実情に心痛める多くの良心、その絶大な支援に衷心から感謝申し上げます。

どうぞ、寒風の中で餓えに苦しむ多くの人々のため、彼らと命運を共にするPMSの現地職員のため、お祈り下さい。よきクリスマスと正月をお迎え下さい。

#### 中村哲（なかむらてつ）

九州大学医学部卒。専門は神経内科（現地では内科・外科もこなす）。国内の病院勤務を経て、一九八四年パキスタン北西辺境州の州都ペシャワールに赴任。以来二十三年にわたりハンセン病コントロール計画を柱にした、貧民層の診療に携る。一九八六年からはアフガン難民のための事業を開始、アフガン北東山岳部に三つの診療所を設立。九八年には基地病院PMSをペシャワールに建設。また病院・診療所で患者を待つだけでなく、パキスタン北部山岳地帯の診療所を拠点に巡回診療も行っている。二〇〇〇年以降は、アフガニスタンを襲った大旱魃対策のための水源確保（井戸掘り・カレーズの復旧。作業地千四百ヶ所以上）事業を実践。さらに〇二年春からアフガン東部山村での長期的復興計画「緑の大地計画」を継続、〇三年三月からは灌漑水利計画に着手、〇七年三月第一期工事完成。年間診療数約八万人（二〇〇六年度）。

## \*ワーカー通信

喧騒を行く人々の  
平和を守りたいジャララバード事務所  
竹内英允

## 慣れない資材のアレンジ

十月まで強い日ざしに汗を浮かべていたと思えば十一月には急激に気温が下がり、秋を感じる間もなく冬の到来を感じます。季節の移り変わりと共に私も十一月より以前のドラエヌール診療所勤務よりジャララバード事務所勤務となりました。

事務所は現場で必要な資材の購入、車の手配、政府関係の手続き、そして会計など仕事を円滑に運営していく上で非常に大切な仕事を担っています。もちろん事務所は大勢の優秀な現地スタッフにより支えられています。私自身事務所に勤務するようになって一つの物品に対して各スタッフが安くて良い品を探す為に街中駆け回っていることを知り、脱帽させられる思いになりました。

私の仕事の一つに物品の購入があります。前日に日本人スタッフより受けた物品のリクエストを現地スタッフと一緒に確認しながら購入を進めて

いくのですが、事務所に移って数週間の私より長年事務所働いている現地スタッフの方が当然いろいろと知っています。買ってから「コレ、何に使うの?」と聞くと「何に使うのかも知らずに購入していたのか」と笑われながら教えてもらっています。

また、車のアレンジも私の重要な仕事の一つです。この仕事で頭を悩ませられるのが車の故障です。道路状況が悪い水路ではよく車が故障します。

故障したら修理に出すのですが、車のパーツを見せられて「ここが壊れてる」と言われても素人の私ができるわけがなく、「なるほど、ここだね」とわかっている振りをして触ってみたりして誤魔化したりしています。

## 誇れる事務方の仕事

こうして自分の仕事ぶりを書いてみると、一体私は何の役に立っているのだと思われてしまうかもしれません。私がついていくことで不正を防止したり、間違えて二度手間にならないように確認し合うことで、スムーズに仕事を進められるようにするのです。

今まではドラエヌール診療所勤務で街に出る機会が少なかったのですが、今は物品の購入などでバザールへ行く機会も増え、街の様子が見られる



猫車で昼食用のナンを運ぶ少年

ことが楽しみになっています。車と馬車と自転車とで埋め尽くされ、人々がお互いに「早く退け」と怒鳴り合っている大通り。眠そうにぼんやりと座っている店員。座ってお茶をすすり語り合っている人達。ふと路地を見ると子供達が輪になって遊んでいたります。そんな時、この人達がこのまま平和に暮らせるようになってほしいと思います。

大した信念もなく日本から飛び出して来た私ですが、一つだけ心に決めたことがあります。それは命を諦めないこと。診療所に比べて事務所では目に見えて人の命に関わることはありませんが、私が購入するシャベルやパイプが現場で水路を通すための道具となり、何千何万という命を支えることを思うと、誇れる仕事を与えていただいていることに気がつきます。この冬は水路現場の正念場。一所懸命に出来ることを頑張りたいと思います。

## 干ばつに強い品種の 選定が最後の務めに

灌漑用水路建設・植樹担当 横山尚佑

### 乾燥に強い「ビエラ」に期待

カナル（用水路）での二年間のうち、大半の間を植樹担当として過ごさせて頂いた。

植樹の狙いは柳による水路の護岸だけでなく、乾燥に強い樹木による盛り土水路部の外壁斜面の法止め（斜面が滑り落ちるのを防ぐ）、土石流の緩流化等様々で、私が担当してからの一年半で、本当に数え切れない本数の樹を植えてきた。

基本的には根が自然の含水層に到達するまでが勝負である。それまでは灌水、剪定等の世話をす。その中でも水路沿いの柳は水に近いこともあり、早い箇所では二年間の灌水の持続で根が含水層に到達した。言わば、「独り立ち」である。

依然残されている課題は、カナルの水からも、地下水からも遠い外壁土手の樹木の「独り立ち」である。かなり伸根しなくては自然の含水層に根が届かない。

現在、住民が扱っている慣れている桑を中心に、乾燥

に強いオリーブ等を植えているが、結果が出るのが何年先のことなのか、そもそも果たして含水層に到達するのかわから分らない。特に桑は水が近隣に豊富に在る場所にしか植えているのを見たことがなく、この先恒常的な灌水が必要になるのではないかと不安が常にあった。

そんなことを考えながら、いつものように車を走らせ流れる景色を眺めていると、山肌に見える、どうみても何年も灌水されていないであろう樹が目についた。住民に聞くと「ビエラ」という樹で、枝に棘があったり、蜂が寄ってきたりと多少の問題はあるものの、とにかく乾燥には滅法強い。根が余程深く張るのであるう、大干ばつで桑が大量に枯れたことがあるそうだが、その時も生き続けてきたそうだ。山肌に頑強な幹を携え佇むその姿に目を開かれる思いがした。中村先生ではないが「人は見ようとするものしか見えない」ということだ。

早速、後輩の山口君と夏の終わりから苗作りを開始し、この冬に植樹予定である。まもなく退任予定の私はその生長を見ることは出来ないが、しっかりと根付き我々の水路を護り続けてくれることを願う。

### 土を被って働く中村医師

この十一月下旬をもって、二年と二ヶ月にわたる現地派遣を終了させて頂くことになったが、特に印象的で忘れられないのは、土埃の中にシャベ

ルを持って飛び込んでいった先生の姿だ。ダンブから降ろされた土が埃を巻き起こし、私を初め周りのレイバーも皆、口を布で隠す等する中、脇目も振らず猛然と土を掻き落としていた。大将である先生自らが水に浸かり、土を被り、シャベルを振るうその姿に、身が引き締まる思いがした。

難題に何度も何度もぶち当たりながらも、不屈の闘志で工事完遂を目指す先生の勇姿を忘れることはないだろう。一つの事に命を懸ける男の姿を生まれて初めて目の当たりにした気がする。

先生の下で、短かったが、二年と二ヶ月の間働



K池護岸に植えられた桑の苗木

けたことを誇りに思う。胸を張って帰国したい。そしていつかまたアフガンへ、我々のカナルへ訪れたい。私の今後の人生の大きな楽しみだ。

最後に、もうなかなか会うことも出来ないであ

## コメを介して 結ばれる人の絆

農業計画担当 進藤陽一郎

「日本は貧しいのか？」

「アフガニスタンの主食はなんですか？」

「そうナンです」。

日本で時々こんな話をしますが、実は農村では日本米と同じ様な短粒米がナンに次いで多く食べられます。相棒のモハマドいわく「貧しい農家は貯えなどないから、その時期にとれるものを食べるのは当然だ。特に短粒米は同じ時期に穫れる長粒米やトウモロコシより収量が高いので自給用には短粒米が好まれる」のだそうです。ちなみに彼の家でも牛乳や肉汁などと炊いて連日お米を食べているので「日本では白米を水だけで炊くんだよ」と教えたらモハマド一言、「日本人は実は貧

ろう現地人スタッフ、作業員。彼らと共に汗を流し、喧嘩し、笑い合った日々が私にとっては何よりの財産となった。彼らの平穏な生活と幸せを願ってやまない。

しいのか？」

ナンだかわからない要求も

「うちの取り分も種籾にして渡すのか？」

「うん、これも人助けだ」

「じゃあ俺への助けは？」

「うん、それはない」。

ある日のモハマドとの会話です。今年ガラエヌール上流では水の恵みがあり、多くの水田が復活。我々の日本米にも「去年食べたら美味しかったから」とか「お前らの日本米はたくさん穫れるから」と四〇件以上の農家が栽培に参加しました。しかし現地の水稻とは栽培のコツが異なるので大変なのはここからです。例えば「田植え時期はできるだけ遅らせてくれ」と言えば「そうか」と言いつつ二、三日中にはもう植えている。何でだ、と尋ねると、

「人よりも早く植えなければ水を取られる」

そもそもそんな水のない土地で水稻はできないのでなからうか……。あるいは、

「あと数日でいい刈り時期だよ」と教えると「そうか」と言いつつなかなか仕事にかからない。何でだ、と尋ねると、

「今は断食月だからそんなに頑張れない」  
おおそんなことでは神様も悲しむよ……。

農家の数だけ色んな声も届きます。

「俺にも種をくれ」、「種だけでなく肥料もくれ」、「コメよりカネが欲しいから全部買い取れ」といった要望はまだしも、「稲に病気が出たから見てくれ」、「俺のは病気が出なかったから見てくれ」、「俺が病気だからクリニックから薬持ってきてくれ」、「俺は日本人好きだから日本に連れて行ってくれ」、「俺もジャッキー・チェン好きだから空手(?) 教えてくれ」、「俺の結婚のためにカネ貸してくれ」、「お前も早く結婚しろ」、「お前もムスリムになれ、四人妻帯できるぞ」、もはや何がナンだか分からない……。もしかして私はアフガンで一番アホ扱いされている日本人ではなからうか。「これだからアフガニスタンは何百年たっても発展しないのだ」と笑うモハマド。って他人事にみにたいに笑うな！

何はともあれ日本米は多くの実りをもたらし、どの農家が育てたものも美味しく頂けるおコメとなりました。一方では予想以上の害虫発生などの課題も多く残り、普及は見直し段階に逆戻りですが、人と人との繋がりはより確かなものになったと思います。確かにここにいるのはいい人ばかりではないけれど悪い奴は一人もいません。これからもっと多くの農家といい仕事をしたいと思ひ……。でも面倒な付き合いは相棒に任せようかな、とホンネがもれるこの頃です。

どちらも予約は同封ハガキで!  
中村哲医師の最新刊!

出来上がりました!

# 医者、 用水路を拓く

—アフガンの大地から世界の虚構に挑む

四六判上製380頁 定価:1800円+税

戦乱と大干ばつが襲ったアフガン農村復興のため、全長13キロの灌漑用水路建設に挑んだ現地事業7年の苦闘と実践の記録



2008年カレンダー

## 「愛と血の アリアナ大地」

画・甲斐大策

ふるってご注文下さい

A2判(画・7点) 定価:1500円(税込)

今年もカレンダーが出来ました。テーマは「愛と血」。古代から現代まで7枚の油彩による壮大な叙事詩です。ご注文下さい。



### 既存水路に

### 「出張」の日々です

灌漑用水路建設担当 松永貴明

予想を上回る水位低下

水路事業第二期工期は、第一期工期十三キロの終点のK地区池からさらに二・五キロほど進んだM地区池周辺が現在の主な現場になっており、着々と進んでいます。が、なぜか私は現場から十四〜十五キロほど離れたところで仕事をしております。

PMSの水路現場と事務所や宿舎のあるジャラ

ラバードとのちょうど中間に位置するベスード郡というところ。二〇〇七年一月に河の水位が下がって、昔からある用水路に取水ができなくなったので、どうにかしてほしいという住民の嘆願を受け、中村先生が自ら重機を動かして、取水堰を作ったところである。しかし、夏になると河の水位が増し、堰は水没。夏が過ぎ水位が下がってみると、堰は跡形もなくなっていた。と、ここまでは中村先生も予想していたこと。

しかし、今年の水位の下がり方は尋常ではなく、前回の嘆願が水位のもっとも下がる一月頃だったのに対し、今回は十月初旬。実をいうと、この一ヶ月ほど前にもベスード郡の別の地区、カーブル河沿いの用水路の取水堰を作ってほしいという依頼を受け、作ったばかりだった。

私が現在いるのはクナル河沿いの用水路。この嘆願を受けたとき、中村先生は帰国の途でペ

### アリアナ大地の心 頂上の旗

甲斐大策

三十五年ほど前のパミーヤン谷の一月、私は、アフガンの兄弟と南斜面の岩に腰を下ろし、下のバザールの雑貨屋の老人たちみたく、午後の陽射しを楽しんでいた。

「なま、ムハムマド、あの峰、誰か登ったのだろうか……。」

紺碧の空に突き上る水晶のようなゴレイババの主峰をうっとり眺める私に、兄弟は冷やかな調子でいい放った。

「登って何になる……。」

なるほど、登って何になるものでもない。既に誰かが登っていたからどうということもない。かつて陸上競技の話題にこの兄弟は、急用でもないのに何故走る、といった。その時は、岩みたくいなアフガン相手に近代スポーツの講釈をするつもりはなかった。走る、跳ぶ、投げる、スポーツという行為をゼロから考え直すことにした。パミーヤンでの兄弟のひと言にも私は逆らわず、登山を考え直すことにしたのだ。

エヴェレスト(チョモランゴ)に登るわけを問われた英人登山家マロリーの、そこに在るから、との伝説的な返答からもなく一〇〇年、名言と錯覚しかねないその言葉がどれほど傲慢な言だったかに気づく。数十億人の時空と誇りを収奪しつくす植民地経営を当然とした時代の西欧人ならではの言である。人々が神の座と信じ崇め畏敬する山頂に立って自国の旗を翻し、征服成れりと表現してはばからなかった。私たこの世界もそんな西欧近代の傲慢さを磨々としてきたのではなかったか。そして今日もまた頂上に旗を掲げ征服を口にする者が少なくない。頂上直下一メートル、いや三〇センチでもいい、静かに佇む、そんな登山家を見たいものである。

まだ三〇歳代ながら、私が深く敬愛するカラコラムの谷出身の山びとがいる。無酸素の単独行で、ナンガパルバットの七八〇〇メートル地点まで登高した、精神・肉体技術の全てに秀れた岳人である。この友は、聖い山の頂きは決して踏みたくない、という。六〇〇メートルまでの、岡、は別だけどね、と露面が笑う。欧米のクライマーたちをガイドしながらも、彼と仲間が山を犯すことはない。登山の心と行動もまた、近代を見直す時に至っている。



タイヤチューブで作った筏に乗る現地スタッフ

シャワールにいたので、電話で指示を仰ぐと、「この際ケチケチせず、助けてあげましょうや」とのこと。早速、PMSの水路現場から割け<sup>き</sup>そうな重機をベスードへ送った。が、ただでさえPMSの現場の方はギリギリの数の重機で動かしていたので、仕事のペースが落ちてきた。すると、それを見越したかのようにレンタル重機を増やすようにとの指示が、日本にいる中村先生からEメールで送られてきた。それと、今回は本格的な、つ

まり夏の増水や冬の低水位にも対応できるように、取水堰と取水門を作りましょう、という内容も。

### 堰の建設に住民が反対した理由

ともかく重機を増やし、巨石を運んで、堰を伸ばして、水路の水位がある程度上がったところで、とりあえず作業はストップ。中村先生のアフガン入国を待った。しかし、河の水位は急激に下がり続け、また水路は涸れてしまった。

で、中村先生が現場へ到着。早速、本格的な堰の建設が始まると思いきや、住民が反対。なぜかというと、本格的な堰を作るには工事期間の三ヶ月ほど水路の水を止めなければならないが、その期間が小麦の栽培時期と重なったためである。住民からすると、この冬を越せるだけの水が来れば、という気持ち強いのもかもしれない。小麦の値段が高騰し続けている状況なのでそれも仕方がない。PMSの水路がしっかりとした取水堰を持っていて、この急激な水位低下のなかでも、しっかりと取水し続けていたのを見てきたので、同じような堰を作ってあげたいなあと思いましたが、住民の意思を優先して、水路には水を流しながら簡易的（それでもかなり大掛りですが）な堰の建設を、中村先生が中心になって始めました。ですので、自分はそのを一旦離れ、PMSの水路現場の方に専念することにしました。

しかし、中村先生が十日間ほど日本に戻らなければならなくなり、当初は、

「(アフガン人の) エンジニアにやり方は伝えておきましたので、大丈夫ですよ」

と、言っていたのに、帰国の途のペシャワールから

「やはり対岸の護岸は蛇籠を四列で……、セメントミルクで……、巨石はダンブ二〇〇杯ほど……」と、細かい指示の電話がかかってきました。そうなる私はベスードに向かないわけにはいかず、先ず朝一でPMSの方の現場へ赴き、水路事業責任者のヌール・ザマンと打ち合わせをして、ディーゼルの入ったポリタンクを担いでベスードへ向かい、堰の対岸に渡るためにタイヤチューブで作った筏<sup>いかだ</sup>に乗って河を渡り、岸に降りるとき足を滑らせ、すごく冷たい雪解け水の河の中に左半身を沈めるといふアクシデントに遭いつつも、びしょびしょに濡れたまま現場にたどり着き、中村先生からの指示をエンジンに伝え、ディーゼルを重機に給油して、少し現場を眺めて、本来の現場へ戻る。そんな日々を過ごしております。

中村先生が帰国されてから、今日で四日目。あと一週間ほどがんばります。

### ▼ 郵送方法の変更について ▼

\* 一部地域の方々へは発送代行業者を通して別納郵送しております。差出人欄に代行業者名が記載されますのでご了承ください。



## 寄る辺なき人々の 最後の砦として

灌漑用水路建設担当 本田潤一郎

### 五ルピーのドーナツが「乱高下」

最近十時頃になると、我々現場仕事をする者達がちよほどお腹を空かすのを見計らって少年がドーナツを売りに来る。

「ミスター買わないか。一個五ルピー（日本円で十円相当）だ。」

ちよつと高い気がしたが焼き立てで味は美味かった。

翌日、現地人スタッフ達といるところにドーナツ売り少年が再び通りかかると、スタッフの一人がドーナツを奢ってくれた。

「四つくれ。一個いくらだ。」

「二個で五ルピーだよ。」

えっ!? 昨日自分が買った時と違うじゃないか。

「おい、なんで昨日の半額なんだ」と尋ねると、

「昨日のは、大きかっただろ。今日のは小さいから二個で五ルピーだ」と堂々と答える。

うーむ、食い意地に長けている私の記憶が確か

なら、大きさはさして変わらなかったと思うが。納得はいかないものの、美味かったからいいかと仕事を再開している私のところに商売を終えた少年が戻ってきた。

「ミスター、一個余ったから買わないか」

「いいよ。二ルピーかい？三ルピーかい？」

「なにいつてんだよ。一個五ルピーだ」

自称十二歳の少年だが大人顔負けの商売根性だ。だが、そう感動してもらえぬ私はカール・ルイスになったかの如き全力疾走で逃げまとう少年を追走しひっ捕らえ、振り返ると少年の弟が兄の身を案じて大泣きしていた。

それ以来、少年は私を見ると怯えていた時期もあったが、今は常連客として仲良くしている。ちなみに、一個五ルピーの大きいやつが続いている……。

### 地球温暖化を肌で実感

地球温暖化という言葉は教科書やテレビ、雑誌等で幾度となく聞いてきたが、今年ほどその深刻さを現実として痛感した年もない。今年我々の活動するニングラハル州は局地的に降った雨が数回あるのみで、過去にない程著しく水位の下がったクナール川沿いの用水路もPMSの用水路を含む二ヶ所を除き軒並み取水が不可能になっている。農民は田畑を諦めるしかなく、小麦をはじめ食料品は倍額並みの高騰が続く。現金収入の糧を失い、食料品も満足に買えない中、パキスタンからの強

制帰還で帰って来た国内難民を含め、大多数の住民の生活がままならない状態だ。国内情勢も雲行きが危ぶまれる中、今まさに中村医師とPMSの活動が現地生活者の最後の砦となるべく、命の水を流し続ける。

この度十二月をもって退任し、約四年間の現地勤務を終えることとなりました。

このような大きな事業の一役を担えた喜びもありますが、何よりも自分とはまるで文化や宗教、風習の違うアフガン人と共に汗を流し、笑い、過ごした日々が一番の財産です。時にずる賢く、時に勇敢で、人懐っこく、暖かい人々。また、インシャラー（神の御心のままに）のもと、自分に与えられた定めを前向きに受け止め、家族や村、国を大事に思う彼らから、人のあるべき姿を教えてもらった気がします。それでは皆様お元気で、よいお年を。



用水路建設の現地スタッフたちと  
(中央が本田ワーカー)

## 寡黙な「ベラ」に好感

灌漑水路建設担当 近藤真一

### 頼りがいのある人たち

しゃべれない人をアフガンでは「ベラ」と呼ぶ。現在用水路の現場で働いているベラは私が確認しているだけで四人。他の人の話ではあと一人か二人はいるらしい。

ベラの共通点はよく働くことだ。黙々と働く。植樹の仕事をしているベラは仕事に厳しい。おまけに時間にも厳しい。ここでは珍しい人だ。彼の話し方は激しい。言葉にならない声と、体全体を使ったゼスチャーですべてを表現する。特に表情がよい。いいことが起きたのか、悪いことが起きたのか、喜んでいいのか、怒っているのか、本当によく分かる表情をする。他のベラには無いものだ。だからだろうか、彼を知っている人から、よくからかわれる。

水路内造成仕事をしているベラは人懐っこい。先日私のレイバーが彼に携帯電話を渡して話をさせていた。彼はベラである。しかし、私のレイバーの冗談につきあっていた。ベラと一緒に歩いて

いたレイバーは、仕事なのでもう行くぞと彼を急かすが、ベラはうるさいと言わんばかりに、手に持っていた大きな槌を構えて見せる。邪魔をするな。俺は今、電話中だ。

鉄筋仕事をしているベラは綺麗な白髪のおじいちゃん。見た目は細くて小さいが、若い人に負けないぐらいの力仕事をして見せる。よく働くし、何とも頼りがいのある人だ。

### 嘘もつくけど人なつっこい人たち

蛇籠じやかごワークショップで働いているベラは何とも物静かな人で、あまり目立たない。人から教えてもらわないとベラであることは分からない。

四人が四人とも、毎日用水路の現場で働いている。まわりの人と同じ仕事をし、冗談言ったり、バカにされたり、バカにしたり、怒ったり、喜んだり。彼らを誰も無視はしない。放っておかない。

先日、車に乗って幹線道路を移動していたら、左手は腰の横、右耳に腕をつけて高々とビシッと手を上げているおじさんがいた。一体何なんだろうと思つた途端、運転手が急ブレーキ。車を止めて外に出て行く。向かった先は手を上げていたおじさんのもと。杖を持っていたおじさんの体を支え車に戻ってきた。それで私も納得。この人は目が見えないのだ。すぐそこには我々の用水路から流れてくる大量の水で、ちよつとした川になっていたのだ。用水路の水で喜ぶ人はたくさん見てきたが、困っている人は初めて会った。

毎日、冗談言つて、からかったり、怒らせたり、怒ったり、笑ったり、笑われたり。一旦喧嘩を始

めると、最後にはお互いの村の長老が出てこない

と治まらなかつたり。鉄砲持ってきたり。平気で燃料盗つたり、お金をごまかしたり。嘘もいっぱいつく。道端で会うと、お茶を飲んで行け、飯を食つていけ、おしゃべりをしよう、泊まつていけと、小学校にも行つていないような小さい子供までもがそんなことを言う。

そんな人たちが、私は好きでたまらない。

### ▼郵便払込票の記入は分かりやすく▼

\*ご寄付をお送り下さった郵便払い込み用紙は、郵便局からはコピーが届きますので、文字がにじんだり、かすれて判読しづらい場合がございます。楷書で分かりやすくご記入いただければ大変助かります。

### ▼寄附をしてくださる皆さまへ▼

\*当会は法人格を持たない「任意団体」です。お送り下さったご寄付については税金控除の対象となりません。予めご了承頂きますよう、お願いいたします。

### ▼未使用の切手、ハガキを！

\*会報の發送等の通信費に、年間数百万円かかっております。未使用の切手・書き損じのハガキ等お送りいただければ幸いです。(使用済みハガキ・切手は受け付けておりませんのでご理解下さい)

\*一部地域の方々への会報は「料金別納郵便」でお送りしておりますが、その際も料金の代わりとして未使用切手で支払っております。

## ワーカーOB報告⑥ 不思議と居心地が

### 良かったです

元・灌漑用水路建設担当 川口拓真

皆様、お元気ででしょうか。私は二〇〇二年三月から〇五年一月まで、現地で活動をさせていただきました。パキスタンのペシャワールで炊事仕事から始めアフガンで会計や水路事業の仕事をし、現地の皆様に迷惑をかけながらもちよつとはお役に立てたのかなあと嬉しく思いついしながら書いています。帰国してからもう三年近くが経とうとし、地元の福岡で平凡に過ごしています。

ペシャワール会事務局は家から車で一時間ほどなのに、全然顔を出しもしなかった私に、今回事務局から原稿依頼があったのでビックリしました。それよりもっと驚いたのが、その二日前にPMS病院の藤田さんから久しぶりに連絡をいただき、「水路事業が突貫工事に入り人員不足なので、現地に戻ってこんね！」というメールが来た時は本当にビックリしました。心境をうまく説明できないのですが、読んだ瞬間、血が騒ぐというか、出来れば現地に戻りたいな

と感じました。ただ、日本での生活は大事だし、現在の現地事情を詳しく知らないのと、言うか、知ってしまうと現地に戻りたくなるだろうとも思っていたので、本当は自分から知ろうとしていなかったと言うほうが正しいのかもしれませんが、「会社を休むのは大変なので、現地に戻るのにはちよつと難しいです」と伝えました。アフガンで水路掘りしながらどこか日本で雇ってくれる会社はないかなあと、都合のいい冗談さえ考えてしまいます。

思い出してみると、水路工事現場あたりの、のんびりとした土地柄が自分には合っていたように好きなのところも嫌いなところもありましたが、不思議と居心地が良かったです。

当時、水路工事は数キロにも渡って現場が同時進行していて、八畳程のジャララボード会計部屋からいきなり飛び込んだ私には、広大なスケールの水路現場は何がなんだかよく分かりませんでした。また、言葉で指示するだけでは望みどおりに動いてもらえません。初めてばかりの仕事の中村先生や先輩ワーカー、アフガン人作業者からも教えてもらいながら、まず一緒にやってやってみることに始めてみました。

屈強なアフガン人には負けまいとまずは力仕事から始め、重さ二五キロのセメント袋を何度も運んでキッチンと積み上げる作業から、一輪車で鉄筋の中に生コンクリートを流して水門などの構造物を作る作業など、すべての作業をまず

やってみる。泥だらけになりながら一緒にやって、やってみて、納得してもらおう。出来るだけニコニコして、一緒に昼食やお茶をとりながら出来るだけ多く会話をします。そんなこんな繰り返しで、一ヶ月もすれば慣れない仕事も少しずつ進んでいき、一人で現場を任せてもらえるようになったことを憶えています。

時には、作業をサボって悪フザケをするアフガン人作業員と取っ組み合いの喧嘩になったり、有能なエンジニアだけど馬が合わずいつも、あーだこーだ言い争ったり、そのようなこともありましたが、今振り返ると夢中になって水路を掘ってたんだなあと、とても懐かしく思います。いろいろと、二十代のうちに良い経験ができましたが、現地で学んだことは何かと思いついてみても世界が違いすぎるせいもあるのか、日本での仕事に十分活かされていらないようにも思います。ただ、丈夫になつて日本に戻つたことだけは確かなようです。

追伸 思い出話ばかりになりましたが最後に、近藤君、松永君、本田君、元氣しとる？ みんなでラーメン取り合いよつた頃が懐かしいバイ。鬼木さん、石橋さん、進藤さん、伊藤さん、大変でしたが、キャナルで顔中泥だらけになりましたが、一緒に働いて楽しかったです。そして、中村先生、藤田さん、ワーカーの皆様、依然と現地情勢は大変のようですが、一層のご自愛ご活躍、お祈り申し上げます。

●事務局便り

\*言わずもがだが、ペシャワール会はいかなる政治的グループにも属していない。また何か市民運動をやっているわけでもない。強いて言えば、アフガンやパキスタンで現地事業を遂行するための支援を担う活動体である。今回テロ特措法を巡る国会での議論の中で、会の名や中村医師の名がたびたび取り上げられたため、「会は政治的になったのでは」との声が聞かれたので、誤解を正しておきたい。

私たちはこれまで、乞われればどこにでも出向き、アフガンの現状について報告してきた。目的は、現地活動の報告と支援の依頼である。ところが今回の「反テロ戦争」の後方支援としての給油活動を巡る議論の結果如何によっては、現地状況がさらに悪化し、ひいては私たちの安全が損なわれる事態になりかねないと思われた。幾つかの政党に乞われて現地状況のレクチャーを行ったのは、緊急避難的な意味合いが強かったのである。率直に言って、政治家や評論家そしてメディアは、この十年アフガニスタンで起こったことを理解していると思えない。少なくともアフガニ民衆に起こったことを。

たとえば朝日新聞は、「給油新法」と題する「社説」の中で、「ここで問題の全体像を思い出しておこう。9・11直後のアフガン攻撃には国際社会の広い支持があった。テロ特措法に基づく給油活動は、日本としての支援の一環だった。」(十月十八日)とし、これを違憲とする考え方は納得しがたいと記している。ここで

使われている「国際社会」や「日本」とは、実体的あるものなのか。あたかも正義と理性を備えた公正無私の存在として「国際社会」を指定し、日本人の総意の如く「日本」という言葉を使っているが、アフガンから見たとき、そういう言葉は全て政治的虚構であると、今は述べておきたい。

◎村から



サラリーマン在職中に「ペシャワールにて」に出会い、口幅つたいことを言うようですが、「この人は本物だ」と深い感銘を受けたのがペシャワール会入会のきっかけでした。物あまり、飽食、金もうけ第一主義にまみれて暮らす私にとって中村医師の「ペシャワールへの赴任は余りの不平等という不条理に対する復讐でもあった」の一言は、重く胸に迫るものでしたし、何よりも二〇年にわたって黙々と活動が継続されてきた事実が全てを物語っているように思えました。そして二年前に三十数年勤めた会社を退職した時に、それまでの「自分の生活を維持するための仕事」ではなく「余りの不平等という不条理に対する復讐」のささやかな助太刀をしたいと、事務局に顔を出すようになりました。最初はどんな雰囲気なだろうと若干の緊張もありましたが、作業をしていると常にユーモアにあふれた会話が飛び交い、何となくほのほとした居心地の良さを感じます。ペシャワール会は「各人ができるときにできる範囲で仕事を」がモットーですので、皆さん是非一度事務局を気楽に覗いてみてください。お待ちしています。(A・H)

医者、中村哲  
【新刊】1890円  
用水路を拓く

—アフガンの大地から世界の虚構に挑む—

アフガニスタン東部での灌漑用水路建設の7年を綴った激動の記録

丸腰のボランティア

—すべて現場から学んだ—  
中村哲編 【重版】1890円

空爆と「復興」 【2刷】1890円

辺境で診る 辺境から見る

【3刷】1890円

ダラエヌールへの道

【3刷】2100円

医者 井戸を掘る 【10刷】1890円

医は国境を越えて 【6刷】2100円

ペシャワールにて 【8刷】1890円

聖愚者 甲斐大策  
の物語 1890円

石風社 福岡市中央区渡辺通2-3-24  
TEL 092 (714) 4838

アフガニスタンの診療所から  
609円 東京都台東区蔵前2-6-4  
筑摩書房 TEL 03 (5687) 2670

価格はすべて税込価格(税5%)です

会 則

- ① 本会の名称をペシャワール会とする。
- ② 本会は、中村哲医師のパキスタン北西辺境州ならびにアフガニスタンでの医療活動などを支援し、必要な情宣・募金活動とともにワーカーの派遣を行なうことを目的とする。
- ③ 本会は、思想・信条にとらわれず、「支えあい」の精神で一致して会を運営する。
- ④ 会員は年額三、〇〇〇円、学生会員一、〇〇〇円、維持会員一〇、〇〇〇円の年会費を納入する。
- ⑤ 会員はそれぞれ可能な範囲で、自ら創意工夫して自由なやり方で支援活動を行う。
- ⑥ 本会は会報を発行し、会報を通じて活動を報告する。
- ⑦ 本会は若干名の理事、監事を選任し、会の運営を行う。
- ⑧ 毎年一回総会を開き、事業および会計について報告する。
- ⑨ 本会の事務局をFARAH HOUSE (〒八一〇〇〇四一福岡市中央区大名一丁目一〇―二五 上村第二ビル六〇三号 TEL〇九二―七三二―一三三七二) 内におく。